

まちをつくり、まちを動かすのは、その地域に住む人々の力。  
 さまざまな活動に励む姿を、そこに込められた思いを、あなたにも  
 知ってほしくて・・・

まえだ  
**前田**  
 Maeda

# “まち”ものがたり

Vol. 6

## ▼ていねがるがわ桜まつり▲

ていねがるがわ桜まつりは、平成5年に開催されて以来、軽川桜づつみ沿いの前田みどり公園で盛大に行われてきました。全員でのラジオ体操に始まり、日本舞踊・フラダンス・歌謡ショーなどの舞台発表やゲームなどが行われ、たくさんの人でにぎわいます。

軽川桜づつみは、平成元年に道内で初めて「桜づつみモデル事業」として国の指定を

受けて整備されて以来、地域住民の「地域のシンボル」として「子どもたちの故郷の思い出に残る場所にしたい」という熱い思いによって、守り育てられてきた賜<sup>たまもの</sup>。毎年子どもたちによる魚の稚魚の放流や河川の清掃が行われるなど、住民の財産として大切に見守られています。

桜づつみが春の訪れとともに色づく中行われ、春の風物

## ▼福まちサロン

## 前田地区福祉のまち推進センター

前田地区福祉のまち推進センターでは、毎週水曜日に地域の一人暮らしのお年寄りやボランティアが集まって「福まちサロン」が開かれています。雑巾を作って小学校に寄贈したり、千羽鶴を折って広島県原爆被爆者に送ったり、ハーモニカやオカリナなどの楽器が得意な人の演奏に聴き入ったりするほか、健康体操やフラワーアレンジメント、

日本舞踊なども行って楽しいひとときを過ごしています。「お誕生会で手作りのカードを渡したら涙を流して喜んでくれたことが、私たちも嬉しくて、とても印象に残っています」とボランティアのメンバーは言います。「一緒にいるんなことをして、喜んでもらえることで、こちらも元気をもらっているんですよ」。台風の日でも10人ほどが集



▲さまざまな舞台発表が行われ、祭りを華やかに彩ります

詩となったていねがるがわ桜まつりは、地域の親睦や連帯のシンボルとして末永く受け継がれていくことでしょう。



▲ハンドベルを使った演奏にみんなで挑戦しました

まったという福まちサロンは、お年寄りにとってもボランティアにとっても、元気のもとになっています。

広告欄